



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／田中真由美 佐賀県佐賀市勸興公民館 主事
花野 勝則 山口県周南市教育委員会中央公民館 主査

分科会の進め方

13:30~13:35

1 遊びと少年教育と環境保全を融合したおやじ達の地域活性化推進事業—「羽合小木工工隊」の協働ネットワーク事業— 13:35~14:05

新 勝彦（鳥取県湯梨浜町 羽合小木工工隊 お世話係）

「東郷池」の水質浄化活動を出発点とし、子どもとふるさとをつなごうという発想に発展。環境保全活動とプレーパーク構想を総合化したプログラムを展開している。具体的には、古人が行っていた池の管理法を学び、「水草取り」や「水草肥料」の活用などを通して学習と地域交流を実践している。プレーパーク構想は「とっとりおやじ連」や「東郷湖ネットワーク」など地域の関係団体との協働によって実現し、諸団体のネットワーク化によって活動の相乗効果もたらされている。

2 「持ちつ、持たれつ」農村型学社融合プログラムの企画と運営—「サマースクール」・「田んぼの学校」・「みんなで創る授業研究」— 14:10~14:40

鴻上 哲也（佐賀県伊万里市立立花小学校 教頭）

学校は今でも住民の愛校心に支えられた「地域のセンター」である。それ故、対等・互恵の社会教育原理を学校に導入して学校が動きだせば、地域も呼応して動く。サマースクールも田んぼの学校も地域に支えられて展開した、「学校が発信した農村型学社融合プログラム」である。長期休業も放課後の時間も有効に活用し、児童の基本的な生活習慣を改善し、学力を向上させ、「みんなで創る授業研究会」も保護者の参加を得て実現した。結果的に、教職員も変わり、学校と教職員に対する住民の評価が向上した。

ティータイム

14:40~15:05

3 おやじが変わった！学校が変わった！—できる人が、できる時に、できる事を！— 15:05~15:35

八川 徹（大分県由布市 ゆふいん父ちゃん会 前代表世話人）

山崎 充（前由布市立由布院小学校教諭 地域協育推進担当）

父親の学校参画は保護者相互の異業種交流という側面と、多様な技能を生かした学校支援という両面を有している。本会は全国の流れと同じく「おやじの会」として発足し、簡単な学校支援活動を通して父親の存在と有用感を社会的に認知してもらうところから出発した。平成20年度は一気に活動を拡充し、草刈り、植木の剪定、校内キャンプ、各種リフォーム、「ゆふっ子まつりの講師」などを実践し、児童、教員、保護者間の距離を縮めることが出来た。モットーは、できる人が、できる時に、できる事を、である。

4 そろばんのよさを伝える学社連携—公民館講座を学校支援につなぐ— 15:40~16:10

中川 有紀（熊本県益城町教育委員会 社会教育指導員）

益城町公民館主催講座「そろばん教室」の受講生がその成果を学校や「放課後子ども教室」の指導実践に生かして活躍するようになった。学習成果の社会還元事業を通して公民館が活性化し、受講生の自己実現、学社連携が具体的に進展して地域に見えるようになった。算数の学習指導は小学3年生、放課後子ども教室は学童保育の無設置校2校（2年生から6年生）に対して週2回実施している。指導に当たっている住民先生は15人、登録児童は約70名である。技能指導を通して生活指導も行なわれ、地域の教育力の「芽」を育てる機会となっている。